

アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究

実施機関：大分大学（研究代表者：藤岡 利生）

実施期間：平成 21～23 年度

プロジェクトの概要

大分大学のもつ高度なピロリ菌解析技術を実地各国に移転することにより、アジア諸国に蔓延するピロリ菌の詳細な分子疫学調査を実現する。高雄医学大学（台湾）、チュラロンコン大学（タイ）、ハノイ医科大学（ベトナム）、ホーチミン医科大学（ベトナム）と連携して、内視鏡を用いたピロリ菌の採取、培養、遺伝子型の解析をそれぞれの大学の状況に合わせて実施する。研究技術の移転とともにこれらの大学から積極的に留学生を受け入れて研究指導と人材育成を行う。3年間の実施期間の間に、ピロリ菌の遺伝子型の解析を進め、ピロリ菌の病原遺伝子を特定し、感染に続発する疾患の発症要因を解明することにより各国の医学および公衆衛生学の進歩に貢献する。また、本プロジェクトはピロリ菌が歴史的に人の移動とともに世界各地に広まったことを証明しており、その遺伝子型を調査することで、アジア諸国の諸民族がいつ頃、どのような経路で現在の地域に移動してきたのかを解明することが可能で、アジア民族のルーツをたどる地球規模の人類学的研究を実現する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
S	s	s	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトでは所期に計画していた台湾、ベトナム、タイのみならず、それ以外の国々にも連携ネットワークを拡大して、より広範囲にわたる調査及びサンプル解析を実施し、ピロリ菌が有する既知の病原遺伝子について新規の亜系分類の特定や新たな病原遺伝子候補の特定などの優れた成果が得られたことは高く評価できる。また、日本の内視鏡検査技術、分子生物学的解析技術の普及に努め、各国の検査・解析技術の向上にも貢献していることも高く評価できる。今後、確立したネットワークを基に展開を図り、さらなる成果の蓄積を期待する。

・**目標達成度**：所期の目標を上回る大きな共同研究ネットワークを確立し、ハイリスクピロリ菌の同定及び病原遺伝子の亜系分類の策定を行い、加えて新たな病原遺伝子候補の特定にも成功したことは高く評価できる。さらに、新たなモデル解析系を確立して、病原候補遺伝子の発症メカニズム解明に着手したことも評価できる。

・**研究成果**：広範な地域より集められた多数のサンプルの解析より得られた学術的知見はレベルの高い内容であり、今後の治療・予防法の発展につながる有益な成果と高く評価できる。特に、新たに見出された病原遺伝子の発症メカニズム解明に向けて、斬新なモデル解析系を確立

したことは注目される。

・**計画・手法の妥当性**：イコール・パートナーシップの精神を重んじた共同活動を実施し、優れた成果を得たことは、その実施計画・手法が妥当であると評価できる。なお、民族のルーツ解明などに向けた分化人類学的な解析研究においては、今後他分野の研究者も含めた分野横断的な共同研究への展開を期待したい。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：本プロジェクトにより確立したネットワークを基にさらにすそ野の拡大を図りつつ、大分大学の全学推進機構の重点領域として国際共同研究が具体的に継続実施されていることは高く評価できる。今後、この取組をリードする大分大学が、アジア地域における本分野の研究の中心拠点として発展することを期待する。